

2015年9月の金融経済概況のポイント

—— 主に8月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

■景気の基調判断

- 9月も、景気について「基調的には持ち直している」との判断を変更しませんでした。観光は引続き好調ですが、カギとなる個人消費が依然盛り上がりを見せているほか、公共投資も減少しており、景気全体としてはこれまでと大きな変化はないとの判断です。

—— 昨年11月にトーンダウン（下方修正）して以降、「基調的には持ち直している」との判断を続けています。

■個人消費の動向

- 7月の大型店売上高は、前年比▲0.4%と弱含み横ばいでした。昨年4月の消費税率引上げから1年が経過した本年4月から5月にかけて、2カ月続けて前年実績を上回ったものの、6月は天候要因もあって前年割れでした。7月の天候は比較的よく、夏物中心に期待もあったのですが、前年実績を下回る結果でした。7月は雷雨や集中豪雨の影響を指摘する声もありますが、それだけでもなさそうです。
- 8月分は現時点では未集計ですが、9月入り後足元までを含め、同様の傾向が続いているようです。
- 個人消費の動向についての判断は難しいのですが、①統計数値が不冴えなこと（とりわけ、全国や全道の数値に比べて）、②店舗や品目によってはプラスもみられるものの、小売業者間の競争も激しく、これら先の景況感が上向いていないこと、③首都圏や札幌のように高額品が売れたり、外国人観光客による爆買いの動きも乏しいこと、④自動車の販売も減少していること、などから、「全体としてはなお回復の足踏み状態が続いている」としました。

■観光の動向

- 7～8月は、「観光地点動向」の実績をみると、前年比マイナスの先もみられますが、空港旅客数やホテル旅館の宿泊客数（8月）は前年比プラスで、外国人客を中心に入り込みが増加している状況には変わりはありません。

- 好調を持続していると言ってよいと思います。ただし、札幌を中心とする道央・道南の勢いに比べると、そこまでは行っていないように窺われます。

■公共投資の動向

- 前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、公共工事の請負金額は、7月は前年比約1割の減少、8月は約2割の減少となりました。こうした傾向は、全道でみても同じです。業界内では、秋以降にかけて厳しい見通しが聞かれています。

■今後のポイント

- 道北の景気は、全道や全国に比べると、個人消費などで今一つ盛り上がりには欠けるため、基調判断を引き上げられない状態が続いています。景気の「水準」も全道や全国に比べると、今一步低いレベルにとどまっているイメージです。この背景には、企業、家計ともに景気の先行き不透明感がなお根強いこと、換言すると、まだまだ景気の先行きに自信が持てていないことが影響しているとみています。観光に関しては明るい話題が多いのですが、公共投資の先行き見通しが厳しいのは前述のとおりです。個人消費については、インバウンド等の恩恵が（札幌等と比べて）限定的なものにとどまっているほか、より基本的には、所得が目に見えて伸びていないという事情もあると思われる。実際、道北でも雇用情勢は改善が続いているのですが、かといって賃金が大きく伸びているという話はあまり聞かれていません。
- また、8月以降の中国の株価急落に端を発する国内金融市場（特に株式市場）のやや不安定な動きには、留意する必要があると思われます。
- 今後、道北地域の景気全体が着実に回復していくためには、公共投資になかなか期待が出来ない以上、ポイントとなるのはやはり個人消費の動向ではないかと思われます。「所得面からの消費拡大効果」が目に見える形で顕現してくるかどうかはキーとなるのではないのでしょうか。
- 10月1日は、短観の公表を予定しています。当面はこの結果に着目したいと思います。

以 上